

令和7年度 数理・データサイエンス・AI教育 プログラムの自己点検・評価

評価日時：令和8年5月27日 会議：作新学院大学数理・データサイエンス・AI教育プログラム委員会 場所：作新学院大学
評価項目：文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」の認定申請の観点による評価

点検・評価の観点

履修・修得状況

学修成果

学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度

学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度

全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価

産業界からの観点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見

数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること

内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること

令和7年度 数理・データサイエンス・AI教育 プログラムの自己点検・評価

評価日時：令和8年5月27日 会議：作新学院大学数理・データサイエンス・AI教育プログラム委員会 場所：作新学院大学

評価項目：文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」の認定申請の観点による評価

点検・評価の観点	理由
履修・修得状況	本プログラムは選択科目を含むことから学年進行とともに履修・修得者数が増加していくことが想定されていたが、令和7年度の修得者数は9名（全学生の0.8%）となり、昨年度14名（1.2%）よりも5名（0.4ポイント）の減少となった。本年度の修得者数は20~30名程度になると見越していたが、実際には大幅に減少したと言える。これは令和7年度の「情報と社会」の単位取得者数が、当初見通しを大きく下回ったことが原因である。同科目は選択科目であり履修は学生に委ねられるため、必ずしも思惑通りの人数にはならないが、今後も継続的に履修率の向上に努める必要がある。令和7年度は、履修ガイダンスにおける説明およびプログラム案内（ちらし）の配布、学内情報サービスによる周知を行った。令和8年度は、令和7年度の取り組みを継続するとともに、更に学生へのアピールを強化する必要がある。
学修成果	プログラム科目の単位取得者のべ479人の平均評価スコア（秀4点、優3点、良2点、可1点として計算）は2.56、科目別では「統計学」2.33、「コンピュータリテラシー1」2.75、「情報と社会」2.00となった。すべての授業で2.0（「良」）以上の成績となっており、十分な学修成果が得られたと言える。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	各科目の授業評価アンケート結果より「授業内容の分かりやすさ」は全てのプログラム科目で4.0以上であり、自由記述でも「分かりやすい」「丁寧」「苦手意識が減った」といった意見が多く確認された。また、「授業満足度」は、全体として大学平均と同水準を維持していた。以上より、一定の教育効果を安定的に発揮していると言える。

令和7年度 数理・データサイエンス・AI教育 プログラムの自己点検・評価

評価日時：令和8年5月27日 会議：作新学院大学数理・データサイエンス・AI教育プログラム委員会 場所：作新学院大学

評価項目：文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」の認定申請の観点による評価

点検・評価の観点	理由
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	後輩等への推奨度に関しては、現時点では把握できていない。「授業評価アンケート」結果では、上記の通り達成度・理解度について学生から高い評価を得ているため、口コミでの推奨が期待できる。また、授業評価アンケートの結果は学生に対して公開していることから、新入生を含め今後この科目を履修する学生にも確認が可能である。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	本プログラムは、必修科目1科目、選択科目2科目で構成されている。令和7年度は選択1科目の履修が若干名だったため履修者数が少なかったが、今後、学年進行とともに履修者数が増加していく見込みである。ただし、履修率は選択科目の履修状況に左右されるため、これらの選択科目の履修者数をいかに増やしていくかが課題となっている。現在はガイダンス等を通して、学生への周知の徹底を図ることで対応していく。
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	プログラムは令和6年度に開設されたばかりであり、現時点では本プログラムを修了した卒業生はいない。従ってこの項目に関しては、今後の取り組み課題となる。本学では、卒業時アンケート、卒業生アンケート、採用先ニーズ調査を通して卒業生の実態把握に努めており、本プログラム修了者の進路・活躍状況・企業等の評価についても、これらの調査を通して分析していく予定である。

令和7年度 数理・データサイエンス・AI教育 プログラムの自己点検・評価

評価日時：令和8年5月27日 会議：作新学院大学数理・データサイエンス・AI教育プログラム委員会 場所：作新学院大学
評価項目：文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」の認定申請の観点による評価

点検・評価の観点	理由
産業界からの観点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	プログラムは令和6年度に開設したプログラムのため、現時点では産業界からの意見を聴取することは困難である。ただし、本学では外部識者を委員とした教育協議会を開催しており、その中でプログラム内容について諮問することが可能である。それらの意見を踏まえ、本委員会が教育プログラムの内容・手法等について検討していく。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	身近にある様々なAIの具体的な事例を紹介することや生成系AIを実際に利用することで、学ぶ楽しさや学ぶ意識を理解させる工夫をしている。授業評価アンケートにおける満足度をこのことの指標の一つとみなしている。令和7年度の授業評価アンケートでは、「授業満足度」は、「コンピューターリテラシーⅠ」4.4、「統計学Ⅰ」4.6、「情報と社会」4.1と高い評価であった。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	令和7年度入学者は、「情報Ⅰ」が必修化された新学習指導要領世代であり、その後は小学校からICTに触れているGIGAスクール世代の学生である。このような状況を考えれば学生にとっての「分かりやすさ」は年々変化していくことが予想され、変化に即応できるためのOODAループによる授業運営が求められることとなる。このためにもLMSの機能を積極的に活用することで、これを実現していきたい。